

公務員 OB 技術者の技術士試験体験記

1. 初めに

私は地方自治体で35年間、電気系の公務員技術者をしていました。その後、5年前に役所を退官し、電気機器メーカーに再就職しました。以下は、再就職後の技術士試験の記録です。

2. 受験動機

技術士の資格を得ると、営業所の選任技術者になる事ができます。電気工事業の場合は、1級電気工事施工管理技士の資格で選任技術者になることができますが、電気通信工事業の場合はそのような技術検定がまだ実施されておらず、試験で選任技術者の資格を取るためには、2017年の時点では、技術士の試験を突破する以外に道はありませんでした。(2019年からは電気通信の技術検定も始まっています)

私の場合、こういった社内事情が大きな動機でした。ただし、「会社から取れと言われたから」という受け身の受験動機は、口頭試験では言わない方がいいと思います。念のため。

3. 一次試験

一次試験は、再就職して2年目の2017年に受験しました。この時はまだ、電気電子でいくのか、上下水道でいくのか、はっきりと決めておらず、「受かりやすい」と聞いていた上下水道で受験しました。

過去問の勉強だけで、1回で合格できました。

4. 二次試験

会社からの要請もあり、二次試験からは電気電子部門に的を絞りましたが、一次試験を1回で合格し油断があったと思います。そこからは、苦難の連続でした。

2次試験の成績

年度	必須 I	選択 II	選択 III	総合
2018	A	B	A	B
2019	B	B	B	B
2020	A	B	A	A

4-1 二次試験 1 回目

この年は、旧制度最後の年で、必須科目は4択のマークシート方式でした。ほとんど過去問だけの勉強で、7割くらいは取れていたと思います。

専門科目の勉強も、市販の問題集のみで試験に臨みました。専門科目のⅡでLED照明の問題を選択しましたが、LEDは非常照明には適用できないという、事実と異なる記述をしてしまい、B判定になってしまいました。確かに以前はそうだったのですが、法改正があり、適用可能になっていたのを知りませんでした。

一方、選択問題のⅢは、LCC設計を選択し、これは実際の業務で経験が豊富にあったので、A判定でした。

総合Bで不合格ではありましたが、選択Ⅱで致命的なミスをしてしまったので、仕方ないと思いつつ望みはあると思っていました。

4-2 二次試験 2 回目

この年から、必須科目も記述式に変更になりました。従来の「過去問練習方式」が通用しなくなると思い、通信講座を受講する事にしました。通信講座の模擬試験の成績もよく、本番の試験ではある程度手ごたえを感じていたので、必須も選択も全てB評価というのはショックでした。

この年の必須科目には技術者倫理がらみの設問がありました。また、選択科目Ⅲでは、「解決策に共通して生じるリスク」という設問があり、結果的に、倫理に関することや「共通のリスク」という部分にうまく解答する事ができなかったのが敗因だったと思います。いくら内容がよくても、問われたことに正面から答えていなければ合格はありません。

試験制度改正初年度ということで、通信講座のテキストもこれらにうまく対応できているものとは思えませんでした。

4-3 二次試験 3 回目

過去2回の経験から、これまでの勉強方法では合格は難しいと思い、あれこれ悩んでいた時、SUKIYAKI 塾の存在を知りました。本来、添削指導を受けるのは苦手なのですが、思いきって受けることにしました。これが大きかったと思います。添削指導により、論文構成の方法や、自己アピールの方法を学びました。また、SUKIYAKI 塾代表の鳥居直哉氏の解説はとてわかりやすく、この試験を最も熟知していると思いました。よく言われることですが、「真にプロフェッショナルな人の説明は常にわかりやすい」は本当だと実感します。

この年、やっと、ABA とぎりぎりですが、総合 A 判定となりました。

5 口頭試験

最初からこの口頭試験が憂鬱の種でした。とにかく場慣れする事だと思い、あちこちの模擬試験を計4回受けました。

私の場合、業務詳細で取り上げた事例が20年前のもので古すぎる点が特に問題でした。模擬試験の講師からは「致命的」とも言われ、随分心配をし、対策もそれなりにして本番に臨みましたが、そこを問題にされる事は全くありませんでした。とは言うものの、やはり取り上げる事例は10年以内のものにした方が無難だと思います。

口頭試験の内容は実にオーソドックスなもので、18分ほどで終了しました。合格発表まで2か月ほどあり、その間もやもやしましたが、無事に合格する事ができました。

6 技術士試験を振りかえって

技術士試験は、他の資格試験とは違う性質をもっていると思います。そもそも資格試験は過去問を勉強するのが王道であり、それで6割とれるように設計されるべきものだと思います。しかし、技術士試験は違います。過去だけではなく、現在や未来に対する見識を問われます。

また、学会などで論文発表に慣れている方はいいのですが、私を含めて、そのような経験が少ない方には、添削指導を受けることが最も効果的な勉強方法です。自分が書いた文章にあれやこれや言われるのは、決して気分がいいものではないですが、ここは謙虚に教えを乞うという態度が重要です。そうする事で、合格する論文とそうでない論文の違いに気づくことができると思います。

この3年間で、飛躍的に技術力が伸びたとは、正直思えません。それでも、合格にたどり着いたのは、人にわかりやすく説明する重要性に気づかされたからだだと思います。

技術士試験は「記述士試験」などと揶揄されることもあります。確かに、以前と比較して、単純に専門知識を問うような設問の比率は少なくなっています。配点ウェイトでは10%くらいでしょうか。場合によっては、文系の方でも一般教養が豊富で記述力のある方は、合格可能な試験になっているのかもしれませんが。しかし、知識など、どのみちAIには勝てません。技術者にとって真に必要なのは、説明する力や倫理といったもっと重要で大きなものではないでしょうか。今、技術士試験が問うているのはそんな人間力ではないかと感じます。